

[抄録様式]

|  |
|--|
| <p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>平成 29 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>  |
| <p>1. 事業名：</p> <p>吹田市版医科歯科連携糖尿病患者管理システム構築のためのパイロット事業</p>   |
| <p>2. 申請者名：</p> <p>一般社団法人 吹田市歯科医師会</p>   |
| <p>3. 実施組織：</p> <p>一般社団法人 吹田市歯科医師会（主催），一般社団法人 吹田市医師会（事業協力）</p>   |
| <p>4. 事業の概要：一社）吹田市歯科医師会は，一社）吹田市医師会と連携して，吹田市版医科歯科連携糖尿病患者管理システム（以下，吹田システム）の構築を企画し，吹田市に対して実施の要望を行うことを計画している。本事業は，吹田システムのプレ実施を行うことを柱として，吹田システムが機能的且つ効果的に稼動するかについて評価することを目的とする。本事業の実施は，吹田システムが抱える問題点を露呈させ，効果的なブラッシュアップを行う一助となることが期待できる。</p> <p>さらに本事業のもう一つの柱として，吹田市医師会・吹田市歯科医師会および吹田市薬剤師会の各会員を対象とした講演会を開催し，糖尿病と歯周病に関わる「負の相互作用」についての最新知見を吹田市歯科医師会から発信する。本講演会の実施によって，内科医が歯周病を有する糖尿病患者の診療情報提供書作成に対するモチベーションを高めていただくことを目指す。</p> <p>これら事業の実施により，洗練された吹田システムの実現に繋がれば，吹田市在住の糖尿病患者の健康改善に寄与することが期待できる。</p>   |
| <p>5. 事業の内容：吹田システムは，医師が歯周病セルフチェックスコアの高い糖尿病患者に対して，糖尿病に関わる臨床データを載せた診療情報提供書を作成し，自治体（市）および患者に提出することに始まる（歯周病セルフチェック票および診療情報提供書のフォーマットは歯科医師会作成）。同システムは，1）診療情報提供書の作成に対して，医師が自治体（市）から手数料の支給を受けること，2）患者が，医師から手渡された診療情報提供書を歯科医院に持参して歯周病治療を受けた後，その明細書を自治体（市）に提出することによって治療費の一部の支給（治療費サポート）を自治体（市）から受けることを特徴とする。本事業は，同システムのプレ実施を事業の柱とする。自治体（市）が行う医師への診療情報提供書作成費の支給および患者への治療費サポートの支給に本事業助成金の一部を充て，窓口を吹田市歯科医師会とする。医師，患者に対するアンケートを実施し，同システム実施に対する意見，感想を聴取することによって問題点を露呈させる。なお，本年度は吹田市内の基幹病院の糖尿病内科医師に協力を依頼したため，医師への診療情報提供書作成費の支給は行わなかった。</p> <p>さらに本事業のもう一つの柱として，『「糖尿病と歯周病」－医科歯科連携の先に見えるもの－』と題した“ALL 吹田 医科歯科合同セミナー”を開催した。医科から済生会吹田病院 代謝・糖尿病内科科長 最上伸一先生に『“良い”血糖コントロールを考える』と題してご講演いただき，歯科からは九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座 歯周病学分野 教授 西村英紀先生に『栄養状態から考える糖尿病と口腔の健康』と題してご講演いただいた。なお，同講演会は，日本糖尿病協会から「日糖協療養指導医取得のための講習会／日糖協歯科医師登録医のための講習会」として認定された。</p> |
| <p>6. 実施後の評価（今後の課題）：吹田システムのプレ実施事業に参加していただいた市民（患者）は，22名であった。市民（患者）アンケートの集計を行ったところ，約 90%の参加者において，本プレ実施事業が糖尿病患者の健康管理に対して有用であると回答され，同じく約 90%の参加者の方々が，本プレ実施事業に参加して，歯周病に対する関心が高くなったと回答された。事業にご協力いただいた内科医からも良いシステムであると評価いただいたものの，診療時における煩雑性の改善について求められた。また，患者に支給する治療費サポートは，本事業で設定した¥2,000/人が妥当であるとする意見が多く，医師に対して保健請求以外に支給される診療情報提供書作成費は不要か¥1,000/通程度が妥当との意見が多かった。今後，各医療機関における実務担当者にお集まりいただき，本システムの問題点とその解決策について，ディスカッションしていただくことが有意義であると感じられた。講演会には，46名の参加があった。しかし，吹田市医師会からは会長 1 名のみの参加であった。事前に会員の先生方に対して案内文の郵送，会員メールに手の配信を行っていただいたが，休日の午前中に講演会場までお越しいただく形態を取ったことが，参加に結びつかなかったと反省する。今後は，医師会及び薬剤師会の先生方にお越しいただくのではなく，先生方が集まっておられる場所でお話をさせていただく機会を頻繁に得られるように積極的に働きかけることが必要であると思われた。</p>  |